



## Wake On LAN 機能

この章では、Wake On LAN (WOL) 機能について説明します。

Wake On LAN (WOL) は、ハードウェアとソフトウェアの組み合わせによってスリープ状態のシステムを再起動するテクノロジーです。WOL は、Advanced Management Module (AMM) を使用するスイッチごとにイネーブルまたはディセーブルに設定できます。WOL は、スイッチに接続されているサーバの NIC 上でイネーブルにする必要もあります。



(注)

特定のスイッチで WOL 機能を実行する前に、IBM BladeCenter のスイッチとサーバの NIC の両方で WOL がイネーブルになっていることを確認してください。

マジック パケット (特別に符号化されたネットワーク パケット) に対応し、応答するシステムに対しては、WOL はマジック パケットを使用します。WOL は、IBM BladeCenter のシャーシ内にあるサーバブレードをシャットダウンしても、NIC は引き続き電力供給を受けて 1 Gb モードで動作し、ネットワークをリスンし続け、そのサーバを再起動するマジック パケットが到着するのを待つという原理に基づいています。サーバが再起動されると、NIC は 1 Gb モードから 10 Gb モードに移行して正常に動作します。

NIC が 10 Gb モードから 1 Gb モードまたは 1 Gb モードから 10 Gb モードに移行すると、Cisco Nexus 4001I/4005I Switch Module for IBM BladeCenter は、NIC と自動ネゴシエートして対応するモードで動作します。このスイッチは、WOL の自動ネゴシエーション用に 1 Gb/10 Gb 内部サポートを提供し、サーバブレードに対してマジック パケットを透過的にトランスポートします。

